

第4回 中核機能推進会議
(うめきた 2 期区域における新産業創出機能の実現に向けての懇話会)
議事要旨

日時:平成 28 年 11 月 25 日(金)10 時 30 分～12 時 00 分

場所:グランフロント大阪 カンファレンスルーム C05

(事務局)

- ・ 定刻となったので第4回うめきた2期区域中核機能推進会議を始めさせていただく。

(大阪市・川田局長)

- ・ うめきた 2 期では、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点として、新しい技術をものづくり、製品開発、サービスへと繋ぎ、イノベーションを起こしていきたい。研究開発の成果を社会に活かすためのプラットフォームがうめきたにあると、大阪、関西の力になると思う。これからプロジェクトの組成などを始めながら、まちびらき時にはプラットフォームが完成し新たなイノベーションエコシステムが生まれることを目指したい。

(大阪大学・八木理事・副学長:座長)

- ・ 中核機能の核となる新産業創出機能の具体化や産学官の果たす役割をぜひ皆さんと検討していきたい。

(事務局)

(「うめきた 2 期区域新産業創出機能」の説明)

(大阪大学・八木理事・副学長:座長)

- ・ うめきたでは、主役となる来街者にいかに楽しみを与え、その楽しみの中でいかにイノベーションを起こす取組みができるかが狙いと思っている。
- ・ それでは、皆様からご意見をお願いしたい。

(文部科学省・真先審議官)

- ・ 産学官連携は、従来の小規模の連携ではなく、これからは組織対組織の連携が重要と言われている。
- ・ うめきたの、けいはんな・京都・北大阪・神戸等近隣の拠点へのアクセスの良さ、一般の方との接点が期待できる点、加えて大阪に多くの中小企業やベンチャーが存在するという地の利をいかに活かすかがポイントになるだろう。
- ・ ものを生み出すというところでソフト面が大事だと思うので、そういった取組みを強化し、ぜひ他地域にない独自のものを打ち出していきたい。みどりの活用についても、様々なアイデアが考えられる。市民の皆さまが自分のものとして考えられるような拠点になれば。

(JST・高橋課長)

- ・ JST は今週より新大阪のオフィスをうめきたに移転させた。うめきたの地の利である、大学や企業、新たな人たちの集積の場を利用して、関西圏におけるファンディング機関の地位を確立していきたい。
- ・ うめきた2期についてはこれから色々準備をされるとのことだが、うめきたに移転してきた以上、このような検討の場に引き続き JST も参加させていただきたい。

(経済産業省・保坂審議官)

- ・ 世の中の動きがものすごく速く、ベンチャーがイノベーションの担い手になっている。日本でも状況が変わり始めており、うめきたもイノベーションとベンチャーに着目された点で非常に良いと思う。
- ・ 例えば、健康のビッグデータに取り組むとすれば、東北など他地域での先行的な取り組みがあり競争は激しい。どのように大阪の特徴を出していくか。また、イノベーション拠点として住環境との関係をどうするかを考えられると良い。
- ・ 関西の拠点として是非頑張っていたきたい。私どももできる限りのことはしたい。

(近畿経済産業局・吉野部長)

- ・ 関西は地域毎に個性が強いが、地の利では梅田が飛び抜けている。便利で集客力があるその引力を高める政策をぜひ考えてほしい。日常的な接触がより深まったほうがイノベーションのためには効果が高まると思う。
- ・ 経済産業省が関係するインキュベーション施設も関西圏内に存在するので、うまく機能する役割分担の仕組みを考えていただきたい。
- ・ ベンチャーやオープンイノベーションにはフラットな人間関係が重要であると感じており、健康や医療といった専門職の多い分野ではそれもぜひ考えていただきたい。また、支援もしていきたい。

(NEDO・福田理事)

- ・ NEDO で最近注力しているのは中堅・中小ベンチャー企業の育成支援。うめきた 2 期計画は私たちも注目をしているし、もちろん連携をしたいと思っている。条件が整えば直接的な形でここに参画することも検討したい。
- ・ イノベーションの創出のためには、やはり対面で話をしていくことが重要。うめきたにおいて、様々な支援機関やベンチャーキャピタルが一堂に会して活動することは非常に有意義だと思う。

(京都大学・小寺教授)

- ・ イノベーションにはスピード感を持つことが重要であり、ソフトウェアだけでなく、それを動かすモノを気軽に速くつくる施設をここに作っていく必要がある。
- ・ そして、例えば大阪の中小企業が持っているベーシックな技術とのリンクや、東大阪や京都の試作ネットなどと日常的に繋がっている仕組みをつくっておくべきである。
- ・ また、大学等がうめきたに集まるのであれば、大学が共同で教育をしたり、インターンシップができるような拠点にしてもらいたいと思う。

(理化学研究所・渡辺センター長)

- ・ うめきた独自の魅力をいかにつくるか。関西に留まらず、国際的に人を惹きつける魅力が必要になる。
- ・ これだけの大きなみどり空間では、都市の熱を利用することで温度調整を行うことも重要なテーマである。1年中人々が集い利用可能な状況にしないといけない。また、このスペースを活かしきるには、ベンチャー・中小企業だけでなく、大企業や金融機関・ファンディングエージェンシーを含めて取り組む必要がある。

(関西経済連合会・土屋委員長)

- ・ 関西経済連合会の健康医療専門委員会では、2015年に策定した「生き活き関西ビジョン」の実現に向けた取組みの中で、ビッグデータの利活用についても進めている。現在、企業が持つ検診データやレセプトデータを活用するモデル事業を検討しており、国で検討されている医療情報データベースとの将来的な統合や、うめきた2期で収集した健康データとの連携も念頭において、事業の準備を進めている状況である。

(関西経済連合会・松村専務理事)

- ・ 関西の大きな得意分野の1つにものづくりがある。今年、関西の公設試や研究機関においてそれぞれのコーディネートの得意分野が分かるように支援機関ネットワークを作った。また、航空機産業のプラットフォームなどもすでに設けられている。
- ・ さまざまな取組みをしている私たちも、うめきたがそれらの支援拠点として育っていくことを望んでいる。スピードアップのために国からのご支援もいただけるとありがたい。今後は推進協議会を立ち上げ、経験豊富な大阪科学技術センター(OSTEC)なども入っていただいて皆さんと一緒に進めていくことが大事だと思う。

(OSTEC・美濃専務理事)

- ・ 1つの団体でできることは限られている。関西地域には様々な支援機関、支援制度があるので、皆さんで力を合わせて大阪、関西を活性化する取組みをしていかなければならないと思っている。うめきたが中心となり、皆さんが力を合わせる核となれたら良いと思っている。我々も協力させていただきたい。

(大阪商工会議所・児玉常務理事・事務局長)

- ・ イノベーションプラットフォームの構築は、2期のまちびらきを待つのではなく、その前から実際に運営していき、人が集まり、イノベーションや新ビジネスの拠点として実績を作る必要がある。
- ・ 大阪商工会議所では、産学連携あるいは産産連携のプラットフォームをいくつも運営しているので、是非協力したい。推進協議会を設置することは、我々も賛成であり、そこで、我々のプラットフォーム運営でのノウハウ・成果をご活用いただければと思う。

(関西経済同友会・古堅委員)

- ・ 新産業創出には、コーディネーター役が大変重要だろうと思う。今回ご出席のJSTやNEDOは、うめき

た 2 期のコアになるような組織だと思うので、引き続きぜひ期待をしたい。また、もう少し技術側の視点から、うめきた 2 期では理研、産総研などの研究機関とも連携できればと思う。

(都市再生機構・西村理事・西日本支社長)

- ・ まちびらきは最短でも 6 年ほど先となり、準備期間が長すぎるので、民間事業者が決まった段階で速やかに総合コーディネート機関に移行し、正式にスタートすれば良いのではないかな。
- ・ これから参画する民間開発事業者に何を期待するのか。評価の視点や評価軸を明確にするため大阪市と詰めていく。
- ・ また、民間からの提案に際し、その活動の中身を重視すべきで民間の人的、金銭的負担の大小で評価されるべきではないものとも考える。
- ・ 総合コーディネート機関のイニシアティブを将来に渡って誰が取るのかを明らかにする必要もある。当面、推進協議会が活動の方向性のある程度明確にしていけることが、事業者からの提案に際しての道しるべとして重要だと感じている。

(大阪府・錦織参事)

- ・ まちづくりの目標である「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を実現するために、うめきた 2 期のみどりがどのように活用されることで、どのようなイノベーションが生み出されるのか等、みどりの活用について検討をさらに重ねるべきと考えている。

(大阪市・井上局長)

- ・ イノベーション創出の取組みとして、当局ではグランフロント大阪に大阪イノベーションハブを設置しているほか、ベンチャー企業に資金を供給するファンドも立ち上げている。
- ・ 大阪が、世界の MICE 都市として、世界的な学術会議や民間フォーラムの拠点となるように取り組んでいくことは都市のあり方の一つと思っており、うめきた2期が世界の情報や英知が集まる拠点となるよう取り組んでまいりたい。国の機関の皆様の一層の支援を賜りたい。

(大阪市・川田局長)

- ・ 課題としては、うめきたに何を立地させれば良いかと、どのように運営するかということ。日常的な接触の場は重要だが、常駐する余裕のない中小企業、ベンチャー企業にどのように場を提供するか。あるいは住環境についても梅田周辺は賃料の兼ね合いがあるので、もう少し日常的な交流をどのように実現していくかなど、イベントスペースや運営の仕掛けを含めて考えていく必要がある。
- ・ OSTEC の美濃専務理事に、これまでの運営のご経験から、うめきた 2 期で展開していくために運営の改善点などについて意見を伺いたい。

(OSTEC・美濃専務理事)

- ・ 様々なイベントを仕掛けて、色々な情報が集まると思われるような場所や、核となるコーディネート役が常駐し相談ができる場所などにすれば良いと思う。今答えがあるわけではないが、大学の研究者や JST や NEDOなどを始めとする様々な支援機関や情報が集まっているということが大事だと思う。

(事務局)

- ・ 本日欠席ですが、推進会議の学識経験者である合同会社 SARR の松田代表からのコメントをご紹介します。
- ・ 入居者各々の顔や活動が見えないといけない。互いに存在を感じられるオープンスペースのような仕掛けが相互連携には必要である。
- ・ ベンチャー企業の成長に必要な人材が不足している。大企業で役職定年を迎えた方がベンチャーでの業務に携わることを促進するために、スタートアップ支援のノウハウ等を学んでもらう人材教育の取り組みがうめきた 2 期でできると良いだろう。

(大阪大学・八木理事・副学長:座長)

- ・ うめきたの魅力は、人だと思う。うめきたでは、365 日、朝から晩まで異なる層の人々、OL やカップル、家族連れ等を対象に継続的にデータが取れ、少なくとも年間に5千万人以上が来訪するということは、大きなアドバンテージとなる。
- ・ 人にデータを提供してもらうには、運営の仕組みや、インセンティブ提供の方法を上手く作りこんでいく必要がある。そのためにコーディネーターのような人たちをきちんと集めないといけない

(経済産業省・保坂審議官)

- ・ 今の話は、うめきたの魅力について納得感がある。うめきたでどのような取り組みがなされるか分かると、そのデータを求めて日本中の人だけではなく世界中の研究者・人が集まってきて、そうすると今度は住環境を求めだすという展開になってくると面白いと思う。

(関西経済連合会・土屋委員長)

- ・ 健康保険組合などではデータが集まっているので、まずは関西の 1 地域でデータの分析を実施することができ。医療費負担が増えている中で、健康寿命を延ばすことは非常に大きな課題である。人が集まって、健康に関するいろいろな情報が取れ、市民は自分自身の健康が分かるようになると良い。

(理化学研究所・渡辺センター長)

- ・ データ提供者へのインセンティブも大事である。実際に提供者に分析結果のソリューションがきちんと返ってくるということが重要だと思う。また、インセンティブの中に、企業側の製品開発やビジネスを促進するための Win-Win の関係をうまくつないでいくシステムを作ること。

(文部科学省・真先審議官)

- ・ うめきたの地の利のポテンシャルを活かすと、健康・ビッグデータ分野だけではもったいないと思う。けいはんな、京都、神戸、北大阪が、それぞれ多種多様な取り組みを行っているなかで、そのハブとしてうめきたに何を期待するのかをもう少し重ねて考えても良いと思う。

(大阪大学・八木理事・副学長:座長)

- ・ テーマであるライフデザインは決して健康分野に限定するものではない。QOL を支える製品サービスとして、人に関わる商品・ものづくりにフォーカスするとともに、エデュケーションとエンターテインメントを合わせたエデュテインメントという造語を一つのキーワードとしている。異業種の人たちが、1つの場所で共働できれば良いと考えている。それにはコーディネーターが非常に重要になると思っている。

(事務局)

- ・ 本会議の内容は、次回の大阪駅周辺地域部会にて報告させていただく。これをもって、第4回うめきた2期区域中核機能推進会議を終了する。

以上